



e-La Voz

「エー・ラ・ボス」と読みます

HCJB『アンデスの声』 日本語放送 メールマガジン (第36号)

2005年12月20日発行

アンデスからアルプスへ

— ゆう君のオーストリア留学レポート —

オーストリアへの交換留学がきまって浮かれたのが6ヶ月前。ミネソタの大学から手続きの問い合わせをはじめ、夏には里帰りをかねてエクアドルへもどり、オーストリア領事館で「あれが足りない」「これが足りない」といわれながら書類をそろえて、やっとビザ取得かと思いきや、「日本人ですか。ビザは要りません。」「???そういうことは先に言ってよ!」それではと留学のための荷づくりをはじめたところ、ヨーロッパは機内持ち込み荷物が数に制限なくトータルで20キロといわれ、インターネットで確かめたが間違いなし。カーン。必要最低限の衣類だけでも重量オーバー。多分スーツケースそのものが10キロ近くあったのではと気付くのが遅すぎた。空港では順調にチェックイン。オーバーブッキングによるビジネスクラスへのラッキーチェンジはかなわず、しかもこの座席、ちょうど翼の真上で見事に景色が見えない。つかれた体だったのですぐに眠ってしまった。機内アナウンスが大きなカツ丼を食べる途中だった僕を現実にはひきもどした。「まもなくポコタ空港へ直陸します。」あわててチケットを再確認。ポコタはまだコロンビアで、僕の乗り継ぐカラカスはその先のベネズエラだ。「え?何で?」結局、いちど空港におり立ち係のお姉さんの案内で乗り換えをさせられた。キトからカラカスの間は一度ポゴタにおろされ便番号の変わらない別の飛行機に乘せられることになっていること。「書いてよ、そういうことはチケットに!」ポコタからとくに問題もなく順調に飛ぶことができ、カラカスで乗り継ぎ、無事ウィーン空港に降り立った。ところがここでもトラブル・トラベルはつづく。オーストリア全土をおそった大洪水のため、ウィーンから学校のあるドービンまでは電車のレールが水浸しのためバスに切り替わり、おまけに直通ではなくドイツまで北上してまた下がることになった。バスの終点からさらにまた電車で一駅。キトを出発してから突に38時間もかかってオーストリアの西端ドービンに到着。地図をよくよく見ると、ここはドイツとスイスの国境沿い。ウィーンよりよっぽど近い空港が国境をひとまたぎすればあったのだ。いやいや楽しい旅をありがとう。なかなかの体験でした。

ドービンは山の近くにある小さな落ち着いた町です。住民ものんびりして12時から2時までが昼休みでどの店もしまります。日曜日なんか「住んでいる人がいるのだろうか?」と疑うほど静まりかえります。ゴーストタウンというよりは「おだやか」という形容がぴったりのあたたかいイメージがあり、僕はすぐにこの町が好きになりました。山歩きでは僕が気に入っている巨大な一本杉を眺めながら、おいしい空気をすっているとインスピレーションも高まります。学校の授業はちょっと変わっていて、毎日ひとつの科目を集中して8時間ひたすら勉強します。最初の授業はe-Toy-機械、センサー、プログラムをくみあわせてインタラクティブ・システムをつくるクラスでした。僕はフィンランド人学生とチームをくんで光と音を奏でる「楽器」をつくりました。光の量で音量や音程を操作できるので、モニターもキーボードも不要、懐中電灯をふりまわすだけで音楽を奏でることができます。暗いステージ上で演奏すれば、ピジュアル・パフォーマンスとしての効果もあり、現在ライブ・コンサートを企画中です。Photography in the Alps (アルプス写真術)のクラスは、まるまる一週間アルプスをまわって写真を撮るという意外な内容でした。これは楽だと思いきや、教授がすごく厳しく、浮かれて遊びまわっていた生徒はすぐに露見。それもそのはずバリバリの報道写真家でコメント的を射ていて、僕の手元には3週間の授業で600枚以上の写真が残りました。僕は「フォトグラフィー」と日本語の「写真」という言葉を並べて、メディアそのものに対する疑問を考えることをテーマに作品をまとめたのですが、これは学校で展示される大型ポスターに採用されました。Media Planning for the Large Eventのクラスでは2007年の世界規模のイベントGymnastrada会場で使用できるデジタル掲示板を提案しました。デジ



カメで撮った写真を掲示板に載せると、その上から自由に絵や字を書いて残せるというものです。全員でひとつの「作品」を創るというのは、このイベントのテーマである“Come together, be one” にぴったりです。ものすごく忙しい毎日ですが楽しくてしようがありません。好きな勉強をさせてもらえることを神様に感謝しています。昨日、初雪が降り町はすっかりクリスマス色に染まりました。街角から流れる耳慣れた小さな電子音におもわず鼻歌を重ねてしまいます。みなさまも良きクリスマスをお過ごしください。

田辺裕一郎

【田辺裕一郎さんのプロフィール】

両親はエクアドルでバナナ農園を経営。キト日本人学校からアライアンス・アカデミー校にすすんで高校を卒業。現在は米国ミネソタ州ミネアポリス市の大学でコンピューター美術(インタラクティブ・メディア)を専攻。目下オーストリアに交換留学中。メールマガジン第27号(2005.2.24発行)に「ゆう君のミネアポリス・レポート冬の巻」を掲載。

HCJB日本語放送担当

在 主 尾崎一夫 久子

【ホームページのご案内】

HCJB日本語放送のホームページ(<http://japanese.hcjb.org/>)には、リスナー・コミュニケーションのためのふれあいコーナー「フォーラム」(<http://japanese.hcjb.org/forums/>)と、メールマガジンのバックナンバーを揃えた「メールマガジン e-La Voz らいぶらり」(<http://www.hcjb.org/japanese/mmoz/>)のページがあります。どうぞご利用ください。

このメールマガジンは、HCJB日本語放送の管理するメール・リストに登録されている方に無料でお送りしています。このメールマガジンをご覧になってのご感想やご意見、ご要望などは、[HCJB日本語放送](#)までお送りください。

また、このメールマガジンの配信停止、配信先変更、あるいは新規ご登録も[HCJB日本語放送](#)までメールにてお知らせください。なお、メール・リストは配信先メール・アドレスのみで管理されていますので、配信先変更をご希望の場合には、現在登録されている配信先も併せてお知らせください。



Copyright © 2005 by HCJB. All rights reserved.

日本語ホームページ: <http://japanese.hcjb.org/>

Eメール: kozaki@hcjb.org

郵便の宛先:

Mr. & Mrs. Kazuo Ozaki

1920 Berkshire Pl., Wheaton, IL 60187-8050, U. S. A.